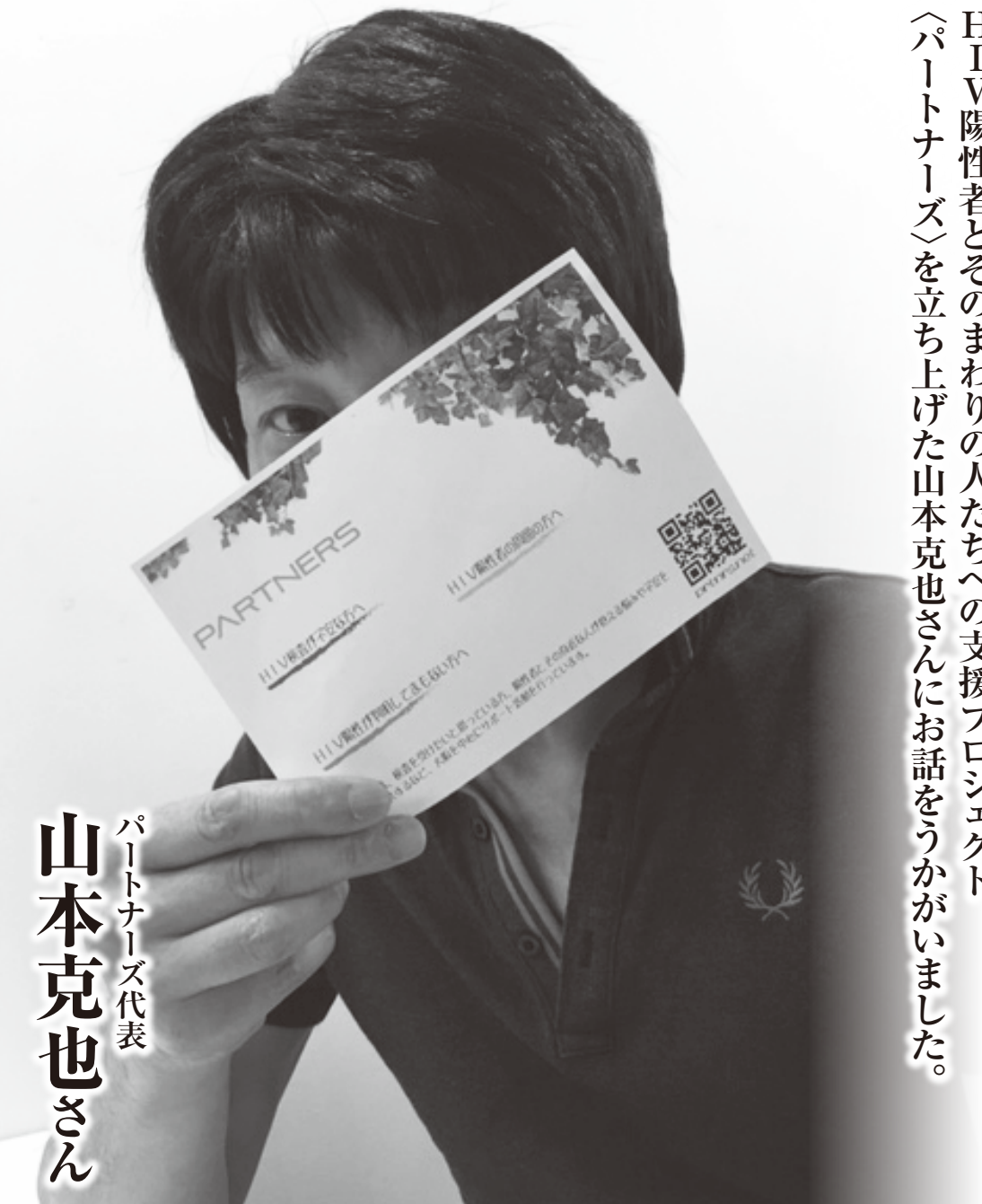




パートナーズ代表
山本克也さん

「病気に押されてしまわないように……」
HIV陽性者とそのまわりの人たちへの支援プロジェクト
〈パートナーズ〉を立ち上げた山本克也さんにお話をうかがいました。

✎ エイズ対策のキーパーソンたち

季刊
[秋号 第24号]
2018年8月24日発行

南 界 堂
中高年世代の
ライフプランを考える新聞

通信

発行：MASH 大阪
〒530-0027 大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎ & 06-6361-9300
http://www.mash-osaka.com/

平成30年度厚生労働省委託事業
「同性愛者等向けコミュニティセンターを活用した広報等一式」事業費
により制作されました。

秋号の紙面 VIEW

2面 時事ネタ WATCH

3面 特別コラム・男色エンタメ紀行

4面 知られざる偉人伝

7面 海外男街通信「マラウイ」

MASH大阪(以下M)・・・新しい事業を立ち上げたきっかけは？
山本・・・かなり前から別の団体でHIV陽性者支援をやっていたのですが、その時の事業の柱が対面サポート、交流会、勉強会の三つ。そのうち対面サポートと交流会を引き継ぐかたちで始めました。
M・・・当時のやり方をそのままに？
山本・・・いえ、当時から、告知を受けて数年間経っている人とそうでない人ではニーズが異なるなど思っていました。そこで判明間もない方を対象にして、少人数のグループミーティングをやり始めました。でも、そのグループの中でも、世代が違つとかなかなかコミュニケーションがうまくいかないという事が分かり、「ミドル(中高年)」や「既婚者」という具合に、さらに細かいグループに分けていきました。こうした対象を絞り込んだ少数のグループを支援するやり方を引き継いだわけです。
M・・・つまりゲイ・バイセクシュアル男性でHIVと共に生きている人たちをきめ細かくグループに分けて支援している？
山本・・・それが主な活動なのですが、それ以外にも幾つかの柱があります。
M・・・具体的には？
山本・・・まず、検査を受けたいのだけれど不安で受けられないという人たちへの支援です。検査

自体が怖いというより、もし陽性だったどうしよう...という漠然とした不安を抱いてしまします。そういった人たちには、陽性と分かったらどのような治療やサービスが受けられるかを具体的に話すことで不安を軽減します。それから、陽性者の周りにいる人たちへの支援も少しずつ始めています。パートナーや友人、家族からHIV陽性だと告げられて、どのようにつきあっていたらいいのか迷っていたり、誰にも相談できなくて一人で抱え込んでしまいい、モヤモヤしたものを引きずりながら暮らしている人からまず話を聞く。もしHIVに対してネガティブなイメージを抱いているのであれば、それを払拭するためにも、HIVと共に生きている人たちの医療の状況は大幅に改善されていることなどを伝えます。
M・・・今お聞きした二つはゲイ・バイ男性に限らないサービスということになりますね？
山本・・・そうです。まだまだ一部の人たちには、未だに昔のエイズのイメージを引きずっていたり、新しい情報が全く届いていない人たちがいます。最新の情報をふまえて、HIVに感染していることがわかった場合、どのような生活のビジョンが描けるかを一緒に考えるというスタンスですね。情報格差を埋める作業といえるかな？一方、すでにHIVを持っている方に対しては、孤立して病気に押されてしまわないように支援する、というの

●PARTNERS
https://prt.nrs.net
・HIV検査が不安な方
・HIV陽性が判明して間もない方
・HIV陽性者の周囲の方
プライバシーに関しても考慮しております。
対面相談などご希望の方は、本名などの個人情報
を明かす必要はありません。
ハンドルネームをご記入の上、ご連絡ください。

が基本のスタンスですね。それともひとつ、お呼びがかかればの話ですが、学校・行政等に出かけ、当事者としてお話をすることもあります。
M・・・ずいぶん幅広い活動をなさっていますが、活動を続けていく原動力は何でしょうか？
山本・・・それが自分でもよくわからないのです(笑)。強いていえば、対面サポートを初めて利用する方の多くは、最初不安顔だったのですが、お話を聞いていく内に利用者さんの中にあるモヤモヤが少しずつ解消されていくにつれて、不安顔から安堵の笑顔に変わっていくんです。もちろん全てのモヤモヤが解消される訳ではありませんが、前向きに向き合っているという利用者さんの心の表れだと思つんです。なので、利用者さんの笑顔が私の原動力になっているんだと思います。あと、一人暮らしをしているので、社会のどこかに自分の居場所をつくりたいと思つているのかも知れませんがね。
M・・・興味深いお話、どうもありがとうございました。

こちらのHIV検査場はすべて無料・匿名です

大阪府版(2018年8月24日現在)

[大阪市]

北区保健福祉センター ● 大阪市北区扇町2-1-27 ☎06-6313-9882	月・金曜日／9時30分～11時 水曜日／14時～15時30分 第5金曜日／18時～20時
中央区保健福祉センター ● 大阪市中央区久太郎町1-2-27 ☎06-6267-9882	火・水・木 ●／9時30分～11時 第1金曜日★(HIVのみ)／14時～15時
淀川区保健福祉センター ● 大阪市淀川区十三東2-3-3 ☎06-6308-9882	月曜日／14時～15時30分 火曜日／9時30分～11時
chotCAST 高槻検査相談・啓発・支援センター ● 大阪市中央区東心斎橋1-7-30 21心斎橋ビル4階 火・木・土曜日／☎06-4708-5035 日曜日／☎06-4708-5339 ※いずれも検査実施時間帯のみ。	火・木曜日／18時～20時(先着50名) HIV・梅毒・B型肝炎 土・日曜日★／14時～15時30分(先着50名) HIV・梅毒・B型肝炎 ※土曜日は12時40分に整理券を配布。 日曜日のみ事前予約制－ (スマホ)http://www.npo-jhc.com/namba-kensa/ (フューチャーホン)http://www.npo-jhc.com/namba-kensa/m

[堺市]

堺保健センター ● 堺市堺区甲斐町東3-2-6(保健医療センター内) ☎072-238-0123	第2木曜日／9時～11時
中保健センター ● 堺市中区深井沢町2470-7(中区役所内) ☎072-270-8100	第3月曜日／9時～11時
東保健センター ● 堺市東区日置荘原寺町195-1(東区役所内) ☎072-287-8120	第4火曜日／9時～11時
西保健センター ● 堺市西区鳳南町4-444-1(鳳保健文化センター内) ☎072-271-2012	第1火曜日／9時～11時
南保健センター ● 堺市南区桃山台1-1-1(南区役所内) ☎072-293-1222	第3水曜日／9時～11時
北保健センター ● 堺市北区新金岡町5-1-4(北区役所内) ☎072-258-6600	第2火曜日／9時～11時

ちぬが丘保健センター ● 堺市堺区協和町3-128-4 ☎072-241-6484	第1水曜日／13時30分～15時30分
美原保健センター ● 堺市美原区黒山782-11 ☎072-362-8681	第4木曜日／13時30分～15時30分

堺市保健所(夜間検査) ● 堺市堺区田出井町2-1サンスクエア堺B棟地下1階 第5会議室 ☎072-222-9933	奇数月・第3水曜日／18時30分～20時(先着20名) HIV・梅毒
堺市保健所(平日即日検査) ★ 堺市堺区甲斐町東3-2-6(保健医療センター内) ☎072-222-9933	偶数月・第4木曜日/10時～11時(先着20名)
さかいサンサンサイト ★ 堺市堺区田出井町2-1サンスクエア堺B棟地下1階 第5会議室 ☎072-222-9933	第1土曜日／10時30分～12時(先着20名)

[東大阪市]

東保健センター ● 東大阪市南四条町1-1 ☎072-982-2603	第1・3金曜日／9時30分～11時
中保健センター ● 東大阪市岩田町4-3-22-300 ☎072-965-6411	第2・4水曜日／9時30分～11時
西保健センター ● 東大阪市高井田元町2-8-27 ☎06-6788-0085	第2・4月曜日／9時30分～11時

エイズ、性感染症について、気軽にご相談ください！

HIV陽性とわかった時、またエイズや性感染症について相談したり、情報が欲しい時、大阪には相談できるサービスや支援があります。気軽にお問い合わせください。

HIV検査や性感染症などに不安がある方

コミュニティ センター ディスタ
community center
dista

性感染症について知りたい、相談や心配事がある、そんな方はご相談ください。お話を聞き、一緒に考えるお手伝いをします。電話相談と対面相談を行っています。相談員にはゲイの人もいて安心です。

MAP

住所：大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎06-6361-9300
木曜～日曜/17:00～22:00 月曜～水曜 休み
http://www.dista.osaka/

HIV陽性とわかって間もない方

ひよっこクラブ

HIV陽性とわかって間もない人のためのグループミーティング

http://www.hiyokkoclub.com/

HIV陽性のゲイ・バイセクシュアル男性

Cafe・Bar an opportunity

～ただのきつかけ～

詳細はこちら http://www.60.atwiki.jp/anopportunity/

エイズに関する様々な相談をしたい方

エイズ予防財団

エイズに関するご相談を電話で受け付けています。お気軽にご連絡ください。

☎0120-177-812 (無料)

※携帯電話からは、03-5259-1815まで(有料)
月曜～金曜/10:00～13:00、14:00～17:00(祝日は除く)

エイズの知識を深め、HIV検査に行ってみませんか？以下の検査施設では、無料・匿名でHIV検査を受ける事ができます。検査日時については各保健所へ直接ご確認ください。
※道順等の詳細についても、各保健所等へ直接お問い合わせください。

マークの説明
● HIV検査と同時にクラミジア及び梅毒の検査も無料で出来る施設です。
★ 即日検査できる施設です。＊通常の検査では一週間、即日検査はその日のうちに結果がわかります。

[高槻市]

高槻市保健所 ● 高槻市城東町5-7 ☎072-661-9332	毎週金曜日／9時30分～10時30分
-------------------------------------	--------------------

[豊中市]

豊中市保健所 ★ 豊中市中樑塚4-11-1 ☎06-6152-7316	第1火曜日・第3木曜日／13時～14時 HIV・梅毒
--	----------------------------

[枚方市]

枚方市保健所 ● 枚方市大垣内町2-2-2 ☎072-807-7625	毎週火曜日／10時～11時30分
--	------------------

[八尾市]

八尾市保健所 ● 八尾市清水町1-2-5 ☎072-994-6644(感染症担当)	第2・4木曜日／9時30分～10時30分
--	----------------------

[大阪府]

池田保健所 ● 池田市満寿美町3-19 ☎072-751-2990	第1・2火曜日／13時30分～14時30分
吹田保健所 ● 吹田市出口町19-3 ☎06-6339-2225	第2・3・4金曜日／9時30分～10時30分
寝屋川保健所 ● 寝屋川市八坂町28-3 ☎072-829-7773	第1・3水曜日／9時30分～10時30分 平成30年10月から平成31年3月の期間、保健所内工事のため、検査を実施しない場合がありますので、必ず、事前にお問い合わせください。

守口保健所 ● 守口市京阪本通2-5-5(守口市庁舎隣) ☎06-6993-3133	第2・4月曜日／10時～11時
---	-----------------

富田林保健所 ● 富田林市寿町3-1-35 ☎0721-23-2683	第1・3水曜日／13時30分～14時30分
--	-----------------------

和泉保健所 ● 和泉市府中町6-12-3 ☎0725-41-1342	第2・4水曜日／9時30分～11時
---------------------------------------	-------------------

岸和田保健所 ● 岸和田市野田町3-13-1 ☎072-422-6077	第1・3火曜日／13時30分～14時30分
---	-----------------------

茨木保健所 ★ 茨木市大住町8-11 ☎072-624-4668	第1・2・4木曜日／13時～14時 HIV・梅毒
-------------------------------------	--------------------------

四條畷保健所 ★ 四條畷市江瀬美町1-16 ☎072-878-1021	第1・3月曜日／9時30分～10時30分 HIV・梅毒
--	-----------------------------

藤井寺保健所 ★ 藤井寺市藤井寺1-8-36 ☎072-955-4181	毎週水曜日／9時30分～10時30分 HIV・梅毒
---	---------------------------

泉佐野保健所 ★ 泉佐野市上瓦屋583-1 ☎072-462-7703	第1・3月曜日／13時～14時 HIV・梅毒
--	------------------------

[南界堂通信第24号 編集後記]

●以前勤めていた職場の先輩が見事にゴールイン！自分の事のように嬉しくて、拳式&披露宴は爆笑のオンパレード！高砂の新郎席を乗っ取り、花嫁姿の先輩と腕を組んで記念撮影！まるで偽装結婚ってな感じです！結婚願望が少し出てきちゃいました！(笑)(伴仲)

●LGBT理解促進と聞きます。その理解すべきことに差別の定義(差別の構造)があるとよいと思います。(LGBTに限らず)差別に気づくことができ、適切に対応できる方が増えるように。(泰平)

●6月の大地震、皆様の所は大丈夫でしたでしょうか。私は、(普段は1人暮らしですが)偶々この日は横に1名添い寝してたので、早朝の大揺れに目覚めて抱き合いました(^_^)災害時のセーフティーネット等々、考えさせられました。(大畑)

●数年後に迫る年金生活にそなえ、生活習慣をすこしづつ変えようと画策しております。なるべく自炊する、なるべく糖質を抑えた食事を工夫する、なるべくクーラーを使わない、なるべく「なるべく」を「断固」にする、嗚呼……。(哲)

広がる地方自治体の取り組み

「LGBTトイレ」には議論も

パートナーシップ 制度が大阪市でも！

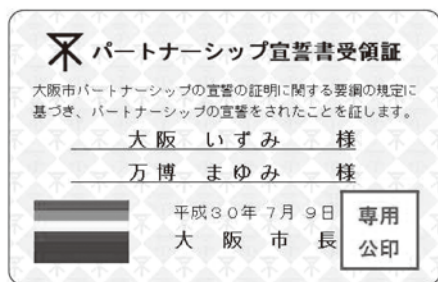
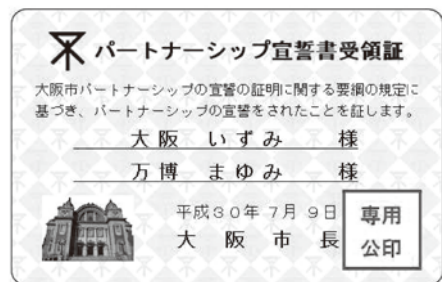
本誌14号のこのコーナーでは、渋谷区、世田谷区の同性パートナーシップ制度の開始を取り上げました。

それから早3年、那覇市、札幌市、福岡市・・・と県庁所在都市にまで広がってきましたが、遂に7月9日、われらが地元、大阪市でも開始されました。

制度を導入した自治体の中で、人口規模としては最大になります(人口269万人)。初日は、計13組が申請し、内3組が吉村市長から受領証を受け取りました。

宝塚市「0件」 はなぜ？

一方、近畿で初導入の(2016年6月)宝塚市の申請件数が、未だに「0件」である点は、ネットでも話題になっています。6月13日の神戸新聞も、「導入2年で申請ゼロ 宝塚市のパートナーシップ制度」という記事



数種類の中から自分の好きなデザインを選ぶという宣誓書受領書(見本)

当事者の安心にもつながっている。できる限り利用しやすきたい」としている。と、市の担当者の釈明の声を紹介しています。

全国の隅々までこの制度が広がっていくのは歓迎すべきことですが、ただ、なぜ0件という自治体もあるのかについての検証も必要かと思えます(水は掛けない程度に)。例えば、
①同性パートナーシップを市が認めると言っても、では、具体的にどういうメリットがあるのか、「実利」が今いち不明？(※大阪市は、受領書を受け取った同性パートナーについて、同居を親族に限定している市営住宅の入居について許可を検討中とのこと。)

②人口規模の小さい自治体だと、カムアウトするに等しいという心理的ハードルが強い？
③世田谷区や札幌市では、当事者(住民)が公に声を挙げて行政に制度化を求めたが、宝塚市の場合はそれがなかった。
・・・といった要因も考えられます。

「LGBTトイレ」 の波紋

地方自治体の取組みの中で、一方で、当事者からの批判や反発を受けて、撤回・修正されるものも現れています。

大阪市の吉村市長は、4月12日、記者から「淀川区役所などから発祥して、多目的トイレにレインボーマークを貼るという取組が各区役所、市役所の中でも広がったが3月末で中止したことを聞かれて、次のとおり答えました。



現在大阪市役所に掲げられている多目的トイレの標識

「多目的トイレにすね、レインボーマークを貼ってLGBTの皆さんに配慮して、ご自由にご利用できますよということ、そういうのを一定進めていく」ということでありまして、**でも、当事者の方から、いや、**

そうじゃない当事者もいるんですよ」ということの指摘を受けて、そして、まさにその通りであるということですし、あえて、そこでレインボーマークを貼らなくてもですね、どなたでもご利用いただけますというのを積極的に周知すれば、それは足りる訳で、やはりそれはそうだなというふうに思いましたので、**どなたでもご利用できます」という表示をきちんとすると。それから、**

多目的トイレを広げていくということを含め、進めています。それは当事者の声を受けて、そういうふうに変更した訳ですけれども、今後、施策をしていく中で、やはり当事者の声というのは大事にしていきたいというふうに思っています。(注1)

レインボーマークを貼った「LGBTトイレ」……マークを貼ることでかえって使いづらいという声や、そもそもトランスジェンダーが直面する問題だがLGBTの問題ではないという声も聞かれました。2月には、京都で「LGBTトイレについて考える京都会議」が開かれました(注2)。

ゲイをカミングアウトした京都府長岡京市の小原明大議員も二次会から参加したようです。小原議員に聞きました。「自分もいわば「LGBT当事者」ですが、トイレのレインボーマークがこんな人に人を苦しめ

るとは思っていませんでした。LGBTという言葉は言いやすいですが、自分のことはLGBTでなくゲイと言おうと思いました。」



いろんな声を行政に！

また、地方自治体によっては、「LGBT専門相談」を開始する所もありますが、相談員はどうするのか(当事者か非当事者か、当事者であれば誰でもよいのかetc)、結局は全ての窓口で性的指向や性自認に配慮した対応がなされるのが目標ではないのか、といった議論もあります。

今後もし試行錯誤は続くかもですが、(吉村市長も述べているように)いろんな当事者が、いろんな課題で(勿論HIV/エイズも、いろんな声を行政に對してあげていくことは大切です。本誌でも引き続き注視していきたいと思えます。

(注1)
<http://www.city.osaka.lg.jp/seisakukikakushitsu/page/000431714.html>、産経新聞4月20日記事「LGBT配慮のレインボーマーク 当事者指摘で掲示中止に大阪市の多目的トイレ」

(注2)
https://twitter.com/LGBT_Grassroots

特別コラム

てるちゃん、ありがとう



キリスト教会の牧師であり、大学教員であり、何よりもエイズを患う人たちの援助者としてまことに大きな存在であったてるちゃんこと榎本てる子さんが去る四月二五日に急性肺炎のため亡くられました。

〈CELEBRATION OF LIFE〉と名付けられた、てるちゃんの告別式に行ってきた。何もかもが型破りの、でも考えてみると「コレが本来の告別式なのじゃないかしら？」と思わせる、明るく、敵かで心のこもったセレモニー。京都市内の教会の広い敷地に溢れんばかりの人、人、人……故人の意向で服装は明るく、スピーチは笑い、涙、歌に変わり、みんなが思い思いにてるちゃんのいのちを祝い、その早すぎる死に涙を流していました。

てるちゃんは、アシユラム運動(教派を超えて祈りの生活を進める運動)で名高い榎本保郎牧師の次女として京都で生まれ、大学で神学を学びます。80年代、カナダと米国の神学校に留学中、エイズ問題に取り組む

活動に触れ、大きな影響を受けます。

帰国後は、高校で聖書を教えながらエイズの活動を始めたがり、前々号で取り上げたバザールカフェを立ち上げたり、HIV陽性者支援と滞日外国人支援のNPO法人CHARMを立ち上げたりと、エイズとともに生きる人たちをはじめとする社会的弱者を支援する活動に進み、2008年からは関西学院大学神学部で教鞭も取られていました。

天真爛漫で豪放磊落、でも繊細で傷つきやすい面も持ち合わせたてるちゃんの周りには、彼女を慕うたくさんの人たちが何かに



しら活動している姿がありました。失礼な言い方かもしれませんが、彼女を見て思うのが、**笑いがこぼれ、力をもらい、我が身とくらべては「てるちゃんのように人間らしく生きることが自分にもできるはずだ」と自分に言い聞かせる、そんな人でした。てるちゃんと出逢えたことに感謝しありません。(哲)**

男色エンタメ紀行

田亀先生のマンガ『弟の夫』がテレビドラマに！

今年の3月、BSプレミアムで、5月にはNHK総合テレビで放映された『弟の夫』。ご覧になった読者も多かったのでは？3人の方々に鼎談風に語っていただきました。



「弟の夫」全4巻、distaの本棚に並んでいます！しかも、1巻目の裏表紙には田亀先生の直筆サイン入り！

た。ゲイを茶化するようなテレビドラマが多かったなか、一線を画す仕上がりになっていたと思う。

M子：私のサンフランシスコの友人に、中学生の男の子と小学生の女の子を持つ夫婦がいて、その子供達はゲイのカップルがすぐ身近にいる環境で育っている。季節のイベントの準備や祝日は必ず一緒に過ごすし、両親に変わって子供を預かることもしばしば。子供達も、親には言えない相談をしたりして、大好きなuncles(おじちゃんたち)。

「普通って何?」ってドラマでも言ってたよね。私はそんな友人達の姿が「普通」なのだと思った。

S男：そのゲイカップルに初めて会ったときから「普通」って思ったの？

M子：さすがに私も初対面の時には弥一さんのように戸惑ったけれど、すぐに私を輪に入れてくれた。すると彼らは人として繋がっていることがわかった。人間的に魅力的な人だから、ずっと一

つたわけ。

S男：ぼくが一番興味があったのは、原作のキッチリ仕上げられた肉体を誰が演じるのだろうかってこと。佐藤隆太と把瑠都。把瑠都は正直可愛かった。もじゃ髭が似合っていて関取時代と違った人に見える。佐藤隆太は体を仕上げてお風呂のシーンに挑んでほしかったが、そんな事はどうでもいらい包容力にあふれた大きな人に感じた。

B介：ドラマ版の一番の立役者はマイクを演じた把瑠都だと思う。「同性愛者」という難しい役柄を役者経験のない把瑠都が演じるという事は大きな賭けだったかもしれないけれど、役者経験がないからこそその純粋さが、おおかで繊細なマイクという人物像をつくりあげるのに一役買っていたと思った。同性に興味を抱き、同性に恋愛感情を抱くこと、我々はそれを「普通」のこととして生きている。マジョリティが抱く「普通」と、マイノリティが抱く「普通」がビタッと重なった時に、ようやく差別は解消されるのかもしれないと思いました。

緒にいたい。そう思う人と温かく穏やかな日常を送ることが一番の幸せなのだと。彼らもまた大きな意味での家族だと私は思

法学者ギユスターヴ・ボアソナード

―日本のゲイの隠れた大恩人？―

偉人伝
知られざる



ギユスターヴ・ボアソナード
(フランスの法学者、教育者
/1825～1910)

文 ● 鬼塚哲郎

数年後の定年退職を待ち焦がれる大学教員。考えてみれば、明治の刑法典がイギリスやドイツの法学者の影響のもとに編纂されたと仮定したら、男色の咎で断罪されたイギリスのオスカー・ワイルドや強制収容所で殺された多くのゲイたちのことを考えるまでもなく、日本のゲイの運命はすっかり違ったものになったかもしれないですね。やっぱりボアソナード先生に感謝しなければ……

このコーナーでは内外のさまざまな「偉人」を紹介してきたが、日本のゲイがもっとも感謝すべき「偉人」は誰だろうと考えた時、ひょっとするとそれはボアソナード先生ではないか、と思いついた。ギユスターヴ・ボアソナードはフランスの法学者であり、お雇い外国人として明治の初めに来日、我が国の法制度の基盤づくりに

多大の貢献をなした人である。そして日本のゲイに対する彼の貢献は、男色を取り締まる法律を近代日本刑法典から削除したところにある。少し歴史を遡ってみよう。

読者のみなさんもお存じのとおり、江戸時代には男色を違法とするいかなる法律もなかった。もしあったとしたら、「オレは生涯で3742人の

女、725人の男と交わったぞ」とぞくぞく世之介の一生を描いた井原西鶴の『好色一代男』のような小説は決して書かれなかっただろう。しかし明治維新で状況は一変。統一的な法体系を構築しようとした明治政府は明治3年に清帝国の法律をもとに新たな刑法を制定。この中に『鶏姦条例』と呼ばれる、アナルセックスを違法とする条項が含まれていた。

6(1873)年。翌7年には我が国最初の本格的法学教育を開始する。西欧諸国の法律にも通曉していたから、明治政府が彼に寄せる信頼は絶大なものとなつていき、ついには新たな近代刑法典の草案作成を委ねるに至る。こうした流れのなかで、ボアソナード先生は『鶏姦条例』をあっさりと削除したわけだ。

『鶏姦条例』を削除した先生の頭のなかにあったのはナポレオン法典であった。ナポレオン法典は、江戸期の日本と同じくさまざまな法律がまだら模様で社会を管理していたフランスの状況を一変させ、教会の權威でも王權でもなく人間の理性を基盤とする近代法として19世紀初めに成立した法典である。ナポレオン法典の精神を吸収しながら育った先生は、教会法によって断罪・弾圧されてきた男色行為を国家の法律によって裁くことは理性に背くとしたナポレオン法典にならい、『鶏姦条例』を葬り去る。我が国最初の近代刑法は先生を通してナポレオン法典の精神を受け継いだわけだ。かつての大英帝国の植民地であり、英国の法律の影響が深く影を落とすアジアの国々―インド、パキスタン、バングラデシュ、ネパール、ミャンマー、マレーシア、

シンガポール、香港―では、いまだに男色行為を違法とする法律が存在するか最近まで存在していたことを考え合わせると、我が国の近代刑法がボアソナード先生の強い影響のもとに制定されたことはまことに幸いだったのではないだろうか。

先生はその後、民法典の草案に着手、長年にわたるハードワークの末に完成させ、内閣に提出、明治26年施行と決まる。ところがそこから民法典賛成派と反対派のあいだに激烈な議論が巻き起こり、ボアソナード民法典は完全に政争の道具と化し、帝国議會でついに施行延期が決定。このとき反対派の先頭にいたのは、かつて先生に熱烈なラヴコールを送った井上毅であった。井上の頭にあったのは、「今の日本に必要なのは、教会と距離をおき理性と個人主義を基盤とするフランス法ではなく、皇帝の権力を大幅に認めるドイツ(プロシヤ)法である」という考えであった。井上の草案による明治憲法が天皇を神格化し、昭和のワルトナシヨナリズムに道を開いていく過程を、晩年のボアソナード先生はどんな想いで見ていたのだろうか。



「食事で夏バテを解消！」

気温の高くなる夏。本来であれば、夏は気温の上昇とともに体が動かしやすくなり、活動的になるものです。しかし、暑い日々が続くと体になるさを感じるようになって食欲が落ちたりすることがあります。いわゆる夏バテです。主な夏バテの原因は暑さに体が疲れてくる、またはクーラーの効いた部屋と室外の温度差からくる自律神経の乱れにより、体の機能をコントロールできなくなることなどが挙げられ、これにより体に不調をきたしてしまいます。あまり知られていませんが、食事のとり方でも夏バテの原因となることがありますので少しご紹介いたします。

夏場は暑さにより胃腸が疲れやすいため、素麺、冷やし中華やさるそばなどあっさりした料理を選ぶことが多くなり、結果として炭水化物を含む食材を摂る機会が多くなります。炭水化物はエネルギーの源で

すので一見すると夏バテには良さそうですが、実は炭水化物だけではエネルギーとして利用できません。炭水化物をエネルギーに変換するためにはビタミンB1という栄養素が必要です。夏場の食事は炭水化物に偏りがちになってしまったためにビタミンB1不足からエネルギーを十分に生み出すことができず、結果として夏バテを起こしてしまうのです。そのため、ビタミンB1を多く含む食材を

摂取することが夏バテには効果的です。ごまやまいたけにもビタミンB1は含まれていますが、ビタミンB1の宝庫として代表的な食材といえは豚肉。その他、うなぎにも多く含まれており、夏の土用の丑の日にうなぎを食べるというのも夏バテ解消という意味では理に合っているのです。ビタミンB1を摂取する上で注意したいことは、非常に不安定な栄養素であるため水に溶けやすく、更に加熱することでも失われがちです。そのため、調理の過程で失ってしまうこともあるので可能な限り調理はすばやく行い、水に浸す時間なども少ない方がよいでしょう。汁物などの場合はビタミンB1が溶け込みますので、汁までいただくようにしましょう。また、ビタミンB1の働きを助ける食材もあり、ネギ、玉ねぎやんにんにくなどがそれに

あたりますので豚肉などと一緒に摂る方がよいでしょう。オススメの献立として豚しゃぶのネギ塩だれや豚肉のガーリックチャーハンなどはいかがでしょうか。これらを食べて暑い季節を楽しく元気に乗り切りましょう。

文 ● 法門坂薬局
迫田直樹(管理薬剤師)
木村優奈(管理栄養士)

国立大阪医療センターの西門前に並ぶ院外薬局の中では、一番古い歴史を持つ法門坂薬局。ジェネリック医薬品を含め、取り扱っている薬品数も一番を誇り、選択肢もたくさんあるので、来局者に寄り添いながら薬選びの相談に乗ってくれます。
〒540-0012
大阪市中央区谷町4丁目3-2
TEL:06-6943-7066



第9回開催決定！



お待たせいたしました！
毎回ひとつのテーマに焦点をあて、その道のスペシャリストをお招きして開催している南界堂茶会。今回のテーマは「食事」にスポットを当てたいと思います。

この世に「オギャーッ！」と生まれ落ち人生を全うするまで、食べることは欠かせません。母親の母乳から始まり、何千、何万という食事を摂って過ごしますが、加齢と共に食生活の変化は誰しもが通る道かもしれません。私の場合30代中盤を過ぎた頃から脂身たっぷりのお肉やこってりラーメンが苦手になり、魚料理やアッサリした味が好ましくなっていました。年齢にバラつきはあるかもしれませんが、皆さんも同じような道をたどってきたかと思えます。

また健康診断を受けると「尿酸値が高いので食べるものに注意して下さい！」と言われることもしばしば。どんな食材が好ましくないのかといった食事指導

を受けた事もありますが、美味しいものは美味しいし、食べたものは食べたんです。ワガママな事は重々承知しています。自らの意志で食生活を変えることは至難の業なのかもしれません。

ホンの数年前までは「塩分ひかえめ」「減塩」という言葉がメジャーだったように思いますが、ここ1、2年でようやく「糖質制限」という言葉を耳にしたり、実際にコンビニやファストフード店でも見かけるようになりました。こういった言葉がメジャーになるという事は、それだけ食生活で悩んでいる、改善を余儀

なくされている人がいるという事だと思っています。

以前「訪問看護」をテーマに取り上げた南界堂茶会でお世話になった渡辺匡人さんは、ご自身が実際に糖質制限食に取り組んでいらっしゃるという事もあり、今回は糖質制限のイロハや留意点などを伺いたいと思います。渡辺さんに加え、本誌「薬食男源」のコーナーでもお世話になっている薬剤師の迫田直樹さん、管理栄養士の木村優奈さんをゲストに迎え、「食事」をテーマに皆さんで語り合いたいと思います。是非ともご参加ください。(開催時間がいともと異なりますのでご注意くださいね。)

2018年9月17日(月・祝) 17:30 - 19:00
会場：コミュニティセンター dista
第9回テーマ「中高年世代の暮らしと食事」
ゲスト
迫田直樹さん(法門坂薬局管理薬剤師)
木村優奈さん(法門坂薬局管理栄養士)
渡辺匡人さん
(からあ訪問看護ステーション)



✈ 海外男街通信

Malawi

アフリカHIV/AIDS事情
～マラウイの医療現場より～



こんにちは。JICA（国際協力分野を担当している行政組織）の青年海外協力隊（職種：看護師）としてアフリカのマラウイ共和国という国で2年間医療活動をしていた不動茜と申します。今回は皆様にマラウイのHIV/AIDS対策について、私自身の経験も踏まえ、少しお話できたらと思ひ筆を執らせて頂きました。

まず初めに、マラウイ国について。初めてこの国名を聞かれた方も多いかもしれませんが、**アフリカ中東部に位置し、アフリカ諸国の中でも最貧国といわれている小国です。GDP（国内総生産）は日本の約1/120、主な産業はたばことメイズ（トウモロコシ）など第一産業にほぼ限られています。またHIV/AIDS蔓延も深刻であり、全国規模のHIV検査が開始された2003年では陽性率14.2%という、世界的に見てもかなり数値の高い状況にありました。現在では人々の努力により9.2%（約2/3）まで減少しています。**



筆者プロフィール
文 ● 不動茜
大阪で生まれ、大阪で育った生粋「河内っ子」です。…が、話の中に「落ち」や「ジョーク」を求められることは極めて不得手とし、静かな場所を好みます。またお菓子作りを趣味の一つとし、マラウイではひたすらバナナケーキを作ってはマラウイ人と食していました（現地では至る所にバナナの木が植わっていて、甘くておいしいバナナはいつでも手に入ります）。さて、何となく分りにくい性格や経歴をもつ私ですが「女は30歳から」という格言を信じ、この秋より学生に戻るため大阪から長崎へ旅立ちます！！

※1次～3次予防に関しては、世界的基準により「1次予防（検査）、2次予防（検査）、3次予防治療と定められています。これは各国の医療状況により異なります。今回は、私がマラウイで活動していた当時の現地の医療状況に合わせて段階分けしています。

設でのポスター掲示やコンドームの無料配布、診察に来た住民への健康教育が実施されています。また2次予防では、主に病院の近くに併設された建物でHIV検査やカウンセリングが無料で提供されています。そして3次予防では、看護師やヘルスワーカー（医療者のアシスタント）が車でアウトリーチ（村々への巡回）に行き、教会や小学校、時には広場の木の下で医療を提供します。一言でアウトリーチと言っても、状況は過酷です。村までの道ばたを片道約1～2時間ひたすら進んでいくのですが、車が途中で故障したり、穴にはまって動かなくなることも少なからずあるそうです。私もこのアウトリーチに一度だけ同行しましたが、帰ってきた時は車酔い＋疲労感でその場からしばらく動けませんでした。また割礼（HIVウイルスの温床となる陰茎の皮の部分を切除しウイルスが身体上で生息できないようにする手術。これにより感染を約60

%予防できるそうです）も定期的に行われています。医療者が村々を回って男児とその家族に医療施設で割礼を受けるよう説明をしますが、特にマラウイでは国際援助団体からの支援もあり、割礼は大々的なキャンペーンとして実施されています。このように医療者側から地域へ入り込んでいく努力が、病院へアクセスできない人々へ医療を繋ぐ架け橋となっています。その他、国内では既にHIV/AIDSに関するガイドラインが作成されており、副作用出現時の内服薬変更やHIVキャリア妊婦のお産時の対応についてなど、細やかに内容が記載されています（医療者へ十分浸透しているかは疑問ですが）。またHIV/AIDS患者専用のクリニックでは内服薬も無料配布されています。

私にとってマラウイでの2年間は楽しいことと同じくらい辛いこともたくさんありましたが、このように多くの大切なことを学べた、かけがえのない時間になったと思います。

男 for you 朋友

台湾エイズファンデーション

名古屋で開催されているHIV検査会を兼ね合わせたイベント「NLGR+」に合わせて、台湾エイズファンデーションのスタッフが来日！

distaにも訪問して下さったので交流会を兼ねた意見交換会を実施しました！

■台湾エイズファンデーション■

13年前に設立された台湾エイズファンデーション。政府からの補助を受けてはいるものの、6割は行政、2～3割は個人や企業からの寄付で成り立っている民間組織団体。活動としては①教育プログラム②カウンセリング③検査提供という大きな三本柱がある。その中でも教育プログラムのに関しては、支援団体のスタッフが予防啓発を行うだけではなく、陽性者やその家族が学校に向き、実際の経験談を語るというようなプログラムを10年以上続けているとのこと。また今後の展望として、学校だけではなく、職場（企業）への教育プログラムも展開していきたいと考えているらしく、正しい知識を広めながら差別や偏見を解消していこうという働きは、全世界共通なんだろうなと感じました。



また台湾国内3都市で「Gisnew Land」というLGBTに向けたコミュニティセンターを運営しています。

■台湾の実情■

ここ数年台湾でもHIV感染者の増加が問題視されており、その対応策のひとつとして、台湾政府は「PREP（曝露前予防投与）」や「PEP（曝露後予防）」を推進しているそうです。テレビCMや学校教育でも大々的に取り上げられる機会が増えているそう。ハイリスク層に「MSM」や「薬物使用者」が多く含まれている現状は、日本ともそう変わりはありませんが、台湾の厚生労働省HPにはPEPを提供している病院のリストが掲載されており、リスクリーな行為があった24時間以内に近隣の病院に駆け込む事ができるような仕組みになっているとのこと。ど

これまでハイリスク層の人々にその効果が届いているかは不明な点が多いみたいです。

また国連合同エイズ計画（UNAIDS）が掲げる①感染者の90%以上が検査を受け感染を自覚すること②検査を受けた感染者の90%以上が治療を受けること③そして治療中の感染者の90%以上で血中ウイルス量を抑制しているのが、現在の台湾は後者ふたつの90%を達成しているのが、最初の90%をクリアすべく受検者数を増やすことに注力しているとのこと。

その流れを汲んで、台湾エイズファンデーションでは、いつでもどこでも検査が受けられるような仕組みを構築すべく、スターバックスや公園などで簡易検査キットを配布し、このラピート検査で陽性となった人は本人の希望に応じてファンデーションのスタッフが確定検査のために病院まで付き添う、という取り組みを行っている。

■日本の実情■

この交流会自体、ここ数年実



台湾エイズファンデーションに関するフライヤーは、distaにもたくさんありますので是非ご覧ください。

施されており、私自身も参加するのは3度目でしたが、昨年11月に移転し新しくなったdistaに彼らも興味深々。政府の予算削減に伴い、規模を縮小しながらも運営されているという我々の実情を知っている彼らだからこそ、「distaが広くなったのは新しいスポンサーを見つけたからですか」という質問も飛び出しました。予算源は以前と変わらず削減されている中で場所を移し最善の策を取ったという事を説明すると「エクセレント!」という返事と共に一気に場の雰囲気や和んだように思います。また検査提供という点では、このコミュニティセンターで実施しているHIV/梅毒検査会「distaでちえっくん!」に關してもすごく興味を示してくれました。ちなみにdistaでは空間の中にカーテンで仕切りを作り、移動診療の許可を受けて検査会を実施しています。